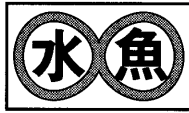


5月11日深夜、久しぶりにマンハッタンの摩天楼を歩いている。日曜日のせいか行き交う人も少なく、靴の音が高層ビルに響く。走馬灯の如く昔のことが思い出された。国連勤務の時は理事会の資料作りや、会合が紛糾し深夜になることも度々であった。

国連に勤務した初日に会議があった。初めての会議だったので、最後まで静かに聞いていた。会議が終わり帰ろうとした時、直属の上司から「部屋に来るように……」



吉村 和就

彼の部屋に入るといきなり怒られた。「なぜ発言をしなければならなかったのか、」

もし発言しないなら、今度から会議には出るな」と激しく叱責された。「始めてなので……」と言いつつ、い訳を始める。「そんなことは関係ない、会議に出ることは発言する義務を持つことだ」と。

この時から、とにかく国連の場では発言しなければ、まったく存在感がないことを思い知らされた。発言するためには、相手以上に知識、知見がなければ馬鹿にされるだけであり、会議資料を事前

に深夜までよく吟味し発言を繰り返した。そのお蔭で「水のごは吉村に聞け」と部屋内で言われるようになった。

2001年の同時多発テロ後、日本に帰国し、古巣の会社の会議で発言を繰り返したところ、「せっかく根回しが終わっているのに、今度からあいつを会議に呼ぶな、うるさいから……」。まさに文明の衝突であった。

2000年に開催された国連ミレニアムサミット、150カ国以上の首脳が集まった。私は総会議場にいた。森総理が演説を始める、

国連と水

自信を持った日本語での演説、6カ国語に同時通訳される、体が大きいと国際会議でも見栄えがいい。「日本国は、人間の安全保障基金として100億円追加する」と述べ大きな拍手を得た。そして水に関するミレニアムサミット宣言(MDGs)「安全な水にアクセスできない人々、非衛生的な環境にいる人々を2015年までに半減させる」が採択された。今回の出張は、外務省から急遽依頼され、CSD16「持続可能発展委員会」グローバル水パートナー

ーシップ会議でのパネリスト役であった。

50カ国から80人の専門家が集まり、「国家レベルでの統合水管理」について話しあった。臨席でパネリストを務めていたデンマークの国連大使から「デンマークの飲料用水源はすべて地下水です、地下水は一度汚染されると取り返しがつきません、だから国として水管理を最重要視しています」と。

会議の前に日本国連代表部を訪ね、高須幸雄国連全権大使と面談、2000年のサミットにて同席して以来8年目の再会であった。高須大使は現在、安全保障理事会「平和構築」の議長をしているが、

安保理事会では「テロ、国際紛争」のテーマに加え、最近では「食料高騰問題、その食料を支える水問題」についても話題に上ってきているという。まさに「21世紀は水の時代」を反映している。
5月13日JFK空港から13時間のフライトにて成田に到着、そのまま午後5時から開催される自民党「水の安全保障研究会」報告書作成会議に参加、国連での水に関するホットな話題を提供できた。
グローバルウォーター・ジャパン代表